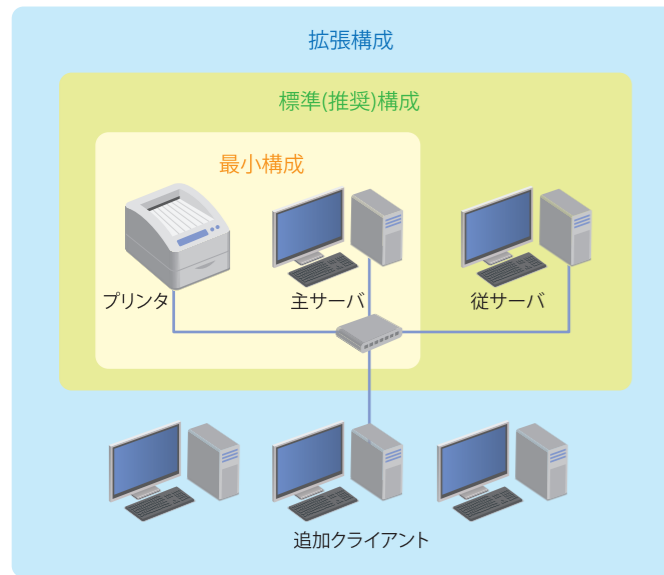


■日医標準レセプトソフト仕様概要

機能一覧

受付業務	入院業務	統計	会計業務	レセプト業務	その他
患者登録 患者受付 患者照会 予約	入退院処理 入院会計 入院定期請求 入院患者照会	日次統計 月次統計	診療行為入力 外来会計 病名登録 収納管理 会計照会	データチェック レセプト一括作成 レセプト個別作成 総括表発行 公費請求書発行 レセプト電算ファイル作成	薬剤情報発行 お薬手帳発行 グループ診療

機器構成



■最小構成

- 日医標準レセプトソフト用サーバとプリンタの組み合わせです。
- 主サーバはLinux機となります。

■標準(推奨)構成

- 主サーバと従サーバでデータを二重に保存します。
- 従サーバはLinux機となります。
- 従サーバで入力されたデータは一旦主サーバに保存され、日医標準レセプトソフトの二重化機能で従サーバに複製されます。

■拡張構成

- 主サーバにクライアントを追加接続します。
- クライアント機はLinux、Windows、Macが使用できます。各OSの混在運用も可能です。
- 最小構成にクライアントを追加も可能です。
- 多数のクライアントの同時運用も可能ですが、その場合は主サーバの性能・処理速度に十分留意してください。

全国160以上の認定事業所がサポートしています。

全国でサービス提供を行う事業所、地域密着型でサービス提供を行う事業所、病院導入を得意とする事業所等々、それぞれが魅力的なサービスを提供することで、全国の医療機関を強力にサポートしています。

サポート事業所の検索: <http://search.orca.med.or.jp/support/>



ORCA 日本医師会ORCA管理機構

〒113-0021 東京都文京区本駒込6-1-21 コロナ第3ビル6階
 TEL: 03-5981-9683 (営業企画部) FAX: 03-5981-9682
 E-mail: delegate@orcamo.co.jp
<http://www.orcamo.co.jp/>



日医標準レセプトソフト

日医標準レセプトソフトは 日本医師会が提供する、日本の医療現場の為の医事会計ソフトです。

日医IT宣言によってスタートしたORCAプロジェクトの象徴ともいえるソフトウェア「日医標準レセプトソフト」。オープンソースによる開発手法を取り入れ、医療機関からのフィードバックを積極的に取り入れながら、日々進化しつづけています。



※ 2020年1月現在。

ORCAプロジェクトは、第2のステージへ。

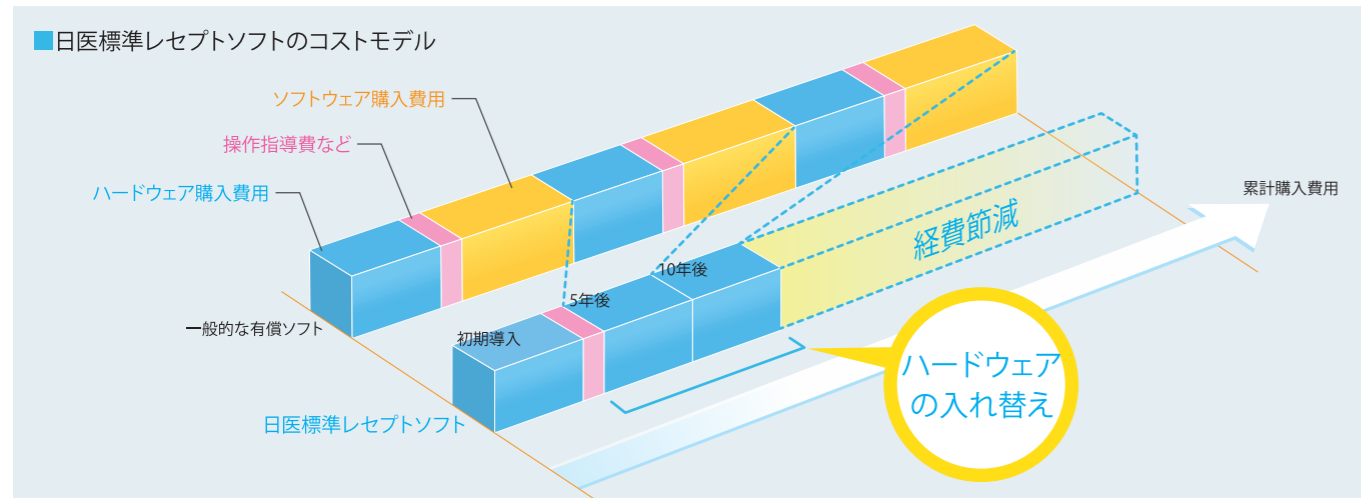
2002年日医IT宣言で公表されたORCAプロジェクトは、日本医師会総合政策研究機構から業務移管され、2015年、日本医師会ORCA管理機構株式会社が主体となる新たな事業として生まれ変わりました。ORCAプロジェクトは第2のステージへと、誰にでも安全に安心して使える医療介護情報システムの基盤づくりを目指し邁進して参ります。

高い経済性

なぜ経済性が高いのか

日医標準レセプトソフトは、オープンソースの開発手法で日々進化しています。必要な台数のハードウェアを用意すれば、ソフトウェアは誰でもいつでもインターネットを介して入手できます。また、ソフトウェアのインストール方法、設定方法、操作方法、他システムとの接続に必要な各種データベースの構造など、そのすべてが公開されています。

5年後、10年後のシステムリプレースのタイミングで、ソフトウェア購入にかかる費用の差を、明確に実感していただけることでしょう。

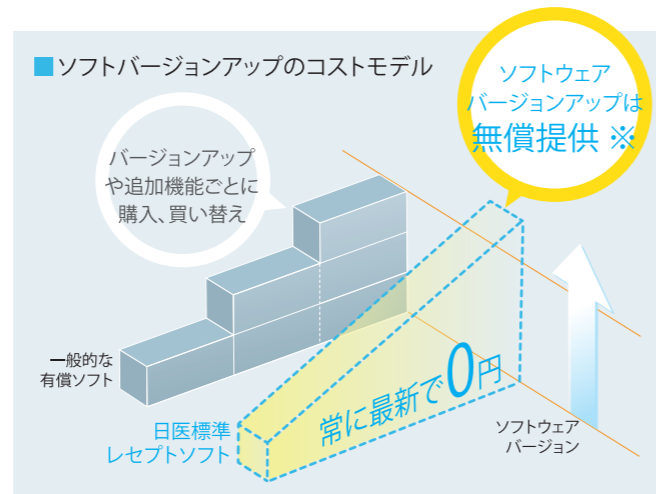


バージョンアップも無償提供 ※

日医標準レセプトソフトは、改正対応、機能強化・機能改善のバージョンアッププログラムやマスタ等のデータも提供されています。

日医標準レセプトソフトは、導入した時点から継続的なバージョンアップを受けることが出来るので、常に最新のバージョンでご利用いただけます。

※改正対応、マスタ等一部機能は2020年1月以降に有償化されています。(オンプレ版)



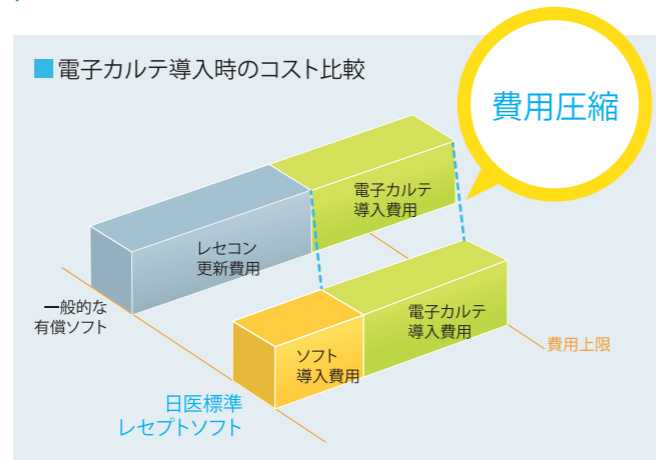
※機能強化、機能改善は無償提供されています。

対費用効果の高さが医療機関の経営を強力にサポート

今、医療を取り巻くICT環境は日々変化し進化しています。しかし、全ての医療機関においてICTに投下できる資本が潤沢にあるわけではありません。

日医標準レセプトソフトの価格のメリットは、システム規模が大きいほど効果を発揮します。

その結果として、小・中規模病院において、日医標準レセプトソフトの採用・導入が広がっています。



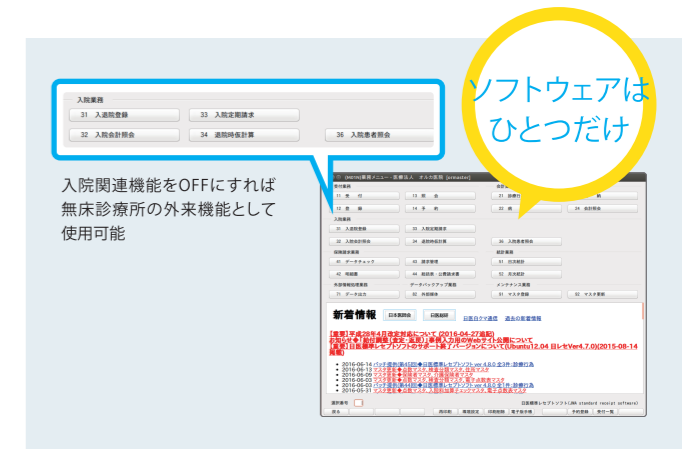
高機能! 病院から無床診療所まで

日医標準レセプトソフトは同一仕様、同一機能

日医標準レセプトソフトは、病院向け、診療所向けという概念はありません。入手するソフトウェアはたったひとつで、病院で使用するソフトウェアがそのまま診療所で使用するソフトウェアとなります。

つまり、病院で使える機能をそのまま有床診療所で使用する事ができ、入院関連機能をOFFにすることで、無床診療所の外来機能となります。

病院とサテライトクリニックなどの複数施設を持つ医療法人などでは、双方に日医標準レセプトソフトを導入することで人的スキルを共有するなど、コストパフォーマンスの向上にもつながります。



充実の各種機能

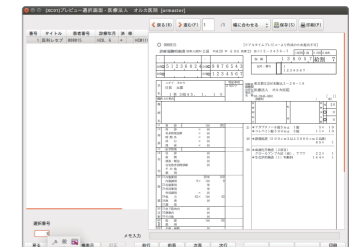
入力時チェック

診療行為入力時に併算定、背反、算定回数のチェックが、薬剤入力時には相互作用や禁忌薬剤のチェックもかかります。



レセプトプレビュー

会計時にレセプトイメージで確認できます。



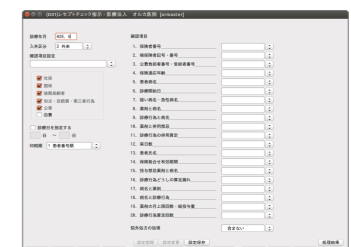
自動算定

基本診療料や各種の加算などは自動算定されます。



データチェック

レセプトのエラー内容をチェックできます。繰り返し使うチェック内容を保存して利用できます。チェックする項目の追加ができます。



その他機能

- 保険情報を履歴管理しています。
- 都道府県単位の地方公費に対応しています。
- 労災・自賠責(労災・健保準拠)、公害(様式第二号:共通様式)レセプトが実装されています。
- 薬剤情報提供書(画像無償提供)が実装されています。
- 70種類を超える各種統計帳票が用意されています。
- E Fファイルの出力が可能です。
- 他社レセコンからのデータ移行が可能です。(認定事業所にお問い合わせください)

グループ診療にも対応可能

日医標準レセプトソフトは、同一法人複数医療機関でのグループ診療に対応しています。 ※日レセクラウドにはグループ診療機能はありません。



信頼性

高い信頼性をものごたる豊富な実績

導入件数が実績と信頼性を証明

日医標準レセプトソフトは、誕生から18年で17,300件を超える医療機関で稼働することとなりました。また、近年では、診療所のみならず病院での導入が進み、600件を超える病院で稼働しています。

日医標準レセプトソフトは、安心してご使用いただける医事会計のメジャーソフトウェアです。

■ 病院診療所別稼働数			
2020年1月15日現在			
	稼働中	導入中	合計
無床診療所	14071	882	14953
有床診療所	1710	72	1782
病院	573	46	619
合計	16354	1000	17354

日医IT認定サポート事業所による安心のサポート

ITの専門家ではない医療機関が、日医標準レセプトソフトの導入に係るすべての作業を独自に行う事は、人的資源の確保や学習・作業などに時間を費やすリスクも発生します。

そこで、医療機関が安心して日医標準レセプトソフトを導入できるよう、全国で160社以上にのぼる日医IT認定サポート事業所がインストールや各種設定の構築作業の“代行”を行い、操作教育や導入後のヘルプデスクを提供しています。

サポート事業所の検索: <http://search.orca.med.or.jp/support/>



拡張性

未来につながる拡張性

日医標準レセプトソフトが繋げる、拡げる

日医標準レセプトソフトは、単なるレセプト専用のレセコンソフトではありません。そのコンセプトには医療機関におけるICTの“核”となる意味合いが含まれています。



また、日医標準レセプトソフトは接続情報、DB仕様などを公開しているため、接続できる同一ソリューションが複数存在しています。例えば電子カルテならば30種を超えます。

それぞれの医療機関で、必要とする最適なソリューションを選ぶことが可能となります。

詳細: <http://www.orca.med.or.jp/support/link/link-connection.html>

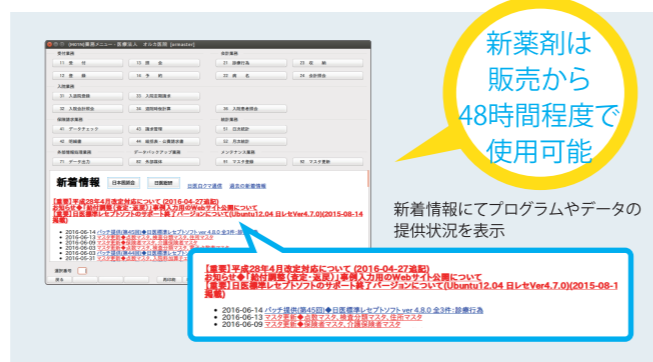
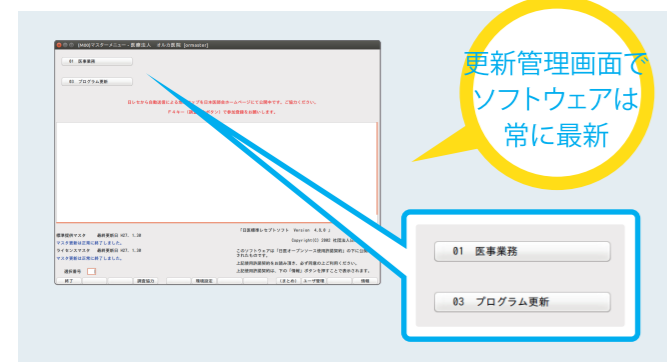
保守性

高い保守性

インターネットの利用で機能更新が簡単・迅速

日医標準レセプトソフトは、インターネットを介してバージョンアッププログラムやマスターデータを入手することが可能です。プログラム更新管理画面で、ソフトウェアは常に最新のバージョンに保つことができます。

新しい薬剤などは発売から最短で4-8時間程度で使用可能となります。プログラムやデータの提供状況は、医事業務メニューの下に「新着情報」としてアナウンスされます。



インターネットから各種データを入手するという発想と、それを支える日本医師会ORCA管理機構(株)とが医療機関の医事会計業務を強力にサポートします。

遠隔保守が可能だから障害発生時も安心

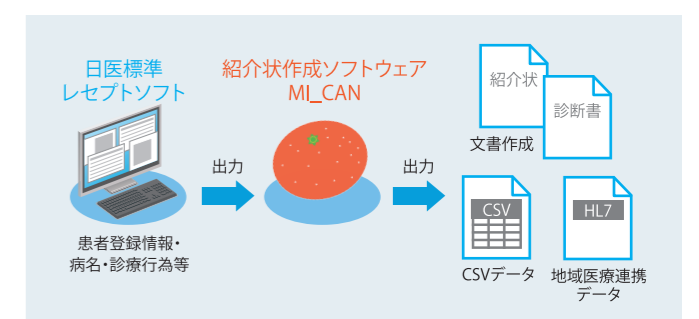
例えば障害が発生した場合でも、安全に遠隔保守が可能なシステム構成を採用しています。万が一の場合に備えた仕組みにより、「駆けつけ」よりも素早い対応が可能となります。(遠隔サポートの有無については最寄りの認定サポート事業所にお問い合わせください)

将来性

変化する医療情報環境に対応した将来性

日医標準レセプトソフトとMI_CANによる地域連携

ORCAプロジェクトが提供する日医標準レセプトソフト用紹介状作成ソフトウェア「MI_CAN」は、地域医療連携に向けたSS-MIX2のトランザクションファイル形式のデータ出力や、投薬・注射等の医療連携用データ作成機能を持ち、電子カルテ等のHIS(Hospital Information System:病院情報システム)をもたない中小規模の医療機関においても地域医療連携に参加できる環境を提供いたします。



日本医師会電子認証センターによる電子署名

MI_CANを導入することで、日本医師会電子認証センターが発行する医師資格証に対応した、電子署名ソフトとの連携をはじめ様々な連携が可能となります。

ORCAプロジェクトは、日医標準レセプトソフトが単なるレセコンソフトに留まらないように、これからの電子処方箋の時代にも対応するべく、将来にわたってサポートし続けます。

